

兵庫県こころのケアセンター 平成24年度実施分に係る
外部評価委員会 業績評価（総合評価）

所 見

- ・トラウマ・PTSDなどの「こころのケア」に関する専門的な相談・診療、教育研修・研究の拠点施設として、すでに10年近い実践および活動のなかで蓄積された経験と知見が、東日本大震災の支援に大いに役立てられており、国内外からの評価につながっている。その結果、当センターの認知度が高まり、研修やシンポジウムなどの事業において、東北をはじめ遠隔地からの参加者が増加するなど、事業相互間で好循環を生み出している。
- ・平成24年度の実施の特色は、東日本大震災被災地支援の継続、女性の児童精神科医の着任に伴う子ども・女性の診療体制の強化や子どものこころのケアに関する研修の充実などであるが、研修、相談・診療、連携交流などのいずれの事業においても、効果的、効率的に実施されており、高く評価できる。また、職員がこれらの活動を高いモチベーションをもって行っていることも評価したい。
- ・特に、東日本大震災においては、被災地における継続的なコンサルテーション活動、健康調査のフォローアップ、子どもの医療相談のための診療医の派遣、「サイコロジカル・リカバリースキル」をはじめとした研修等への講師派遣、シンポジウムにおけるパネルディスカッションによる被災地での課題の検討などの精力的な活動を通して、引き続き大きな貢献を果たした。
- ・さらに、研修事業に関しては全国各地から目標を大きく上回る申し込みがあり、かつ参加者の高い評価を得ており、ヒューマンケアカレッジ事業（音楽療法士養成講座）、ヒューマンケアカレッジ事業（実践普及講座）や連携・交流事業においても、総じて目標を上回る成果を達成している。診療・相談事業に関しても、新しい専門的治療を導入するなど社会の要請に対応した努力工夫を講じており、その成果も認められる。
- ・東日本大震災は、悲惨な体験から立ち直るために「こころのケア」が重要であるという理解を広く浸透させた。そうした中、被災地各地で「こころのケアセンター」が立ち上がり、支援活動を広げていくうえで、当センターは、技術面・運営面での支援を通じて大きな貢献を果たしてきた。

- ・当センターの支援活動は、国内にとどまらず、スマトラ沖地震における津波災害（平成16年）や中国四川大地震（平成20年）など海外でも展開されており、現在でも、国際協力機構（JICA）と協力し、中国四川や中南米アンデス地方の支援職を対象とした人材育成・研修プログラムの実施などを通じて支援活動を継続している。これらのプログラムで学んだ人材の多くは、現地で習得技術を実践しており、センターの経験と知見は世界からも必要とされている。
- ・大規模災害をはじめ悲惨な体験をした人々のこころのケアに応えていくといった当センターの役割は、年々増加する相談・診療件数、支援者研修ニーズとなって現れている。今後も、当センターが高い専門性を保ちながら、国内外を問わず広域にわたる活動を展開させるためには、設置者である兵庫県や国は財政的な手当と人員の配置について、特段の配慮が望まれる。
- ・なお、当センターとしても、限られた予算や人員の中で、効果的、効率的な運営がより進むよう、今後も一層、各事業を有機的に連動させていくことや広報活動を通じて活動内容を積極的にアピールすることに加えて、「このセンターでしかできないこと」を中心とした事業展開及び「”このセンターでしか出来ないこと”を全国に波及させる」ための事業の実施の2点に比重をおいた活動を展開することが望まれ、そのための工夫や努力を続けることが必要である。